



世界コミュニティ年を振り返って

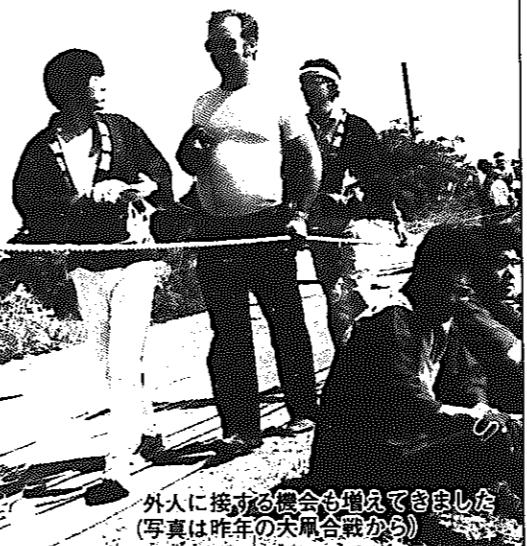
言葉は素敵な友との出会い

小林範さん（中央通・英会話学校勤務22歳）

私は今、仕事の関係で毎日三人のアメリカ人と接しています。

ですから当然、彼女らといふ時は、いつもすべて英語を使って仕事をしているわけです。

毎日、英語を話していると、つくづく英語のむずかしさを感じするものです。特に、われわれのよう仕事というものが間にありますと、片言だけ話せればよいというのではすまされず、

外人に接する機会も増えています。
(写真は昨年の大凧合戦から)

確実にその内容を伝えなくてはならないので一苦労です。

でも仕事を抜きにしますと、どんなブローカン・イングリッシュでも意外と通じるもの

から、いろいろおしゃべりができます。私はいつも、少しでも自分の英語を使いたいと思い、なるべく彼女らをつかまえては話をします。

異国人と話をする。それはどうでも意外と通じるもの

投稿ください 市民の皆さんのお意見を気軽に寄せください。採用文には感謝を差し上げます。紙面の都合上、文を短くすることができます。さて先は、大字白根二・三五 白根市役所企画財政課広報部職員です。

ても楽しいことです。そこからいろいろな事を学べます。もし世界中の言葉を話すことができたら、世界中の人と友達になります。

私は残念ながら、まだ英語しか話すことができませんが、これから国際語とも言われる英語

いろいろな人のコミュニケーションが生まれるはずです。

子に接する態度

田中令子さん（上道潟・主婦・47歳）

先日、母が世を去ったときのことである。吹雪の中を両親と一緒に小さなおいたちも、祖母の死を悔やみに来た。

都会育ちの子供には雪が珍しいらしく、雪がぼそぼそ降る中、大きなかまくらを二つ作つた。

自転車を轟かせ、顔をほころばせ、転びながら雪遊びをする小学校低学年、穴作りをする六年と中二の高学年組と、何の目的で田舎に来たのか忘れたように真剣に作業する。

「おばさんも中に入つてみなあつたかいよ」「あとで入れてね」幼かつたころ、体の冷たくな

裏方として内助の功を払つて来られたかと考へると、称賛の声を発せんにはいられません。

自動車を買うための資金を絵画の道に投じると、本人自身の言葉を耳にしたのを、今でも覚えています。その言葉を裏付けに多くの困難を乗り越え、またこのたび一市民が、チャリティーショーの個展を開き、その売上金をポンと市へ寄贈されたと、新聞に掲載されました。

川村貞子さん（上茨・農業・55歳）

最近、クローバ運動、健康づくり運動が盛んに言われています。

私は七年前から自分の健康づくりに取り組んでいます。毎日

東樹友次さん（鶴潟・無職・71歳）

のうわさはうわさを生み、限りなく広がっていく。逆に、称賛の声は消されやすく消えやすいとされるが、それでも世の中が明るくなつてほしいというささやかな願いから、人様の美しい行動と行為を称賛したいと思つ。

この個展では、幾十年間かの

個展の売上金をポンと寄贈
称賛の声を送る

私の健康づくり

川柳

塩引きの頭並んで春立てり
孫抱いてまん書きかせる炬燵かな

鬼の面中に幼子の目が遊ぶ
湯治場の窓越しに咲く霧水林
節分の豆に追われる老夫婦
鉢植えのチューリップ咲かぬまま立春迎へ
テール赤く霧水の峰越えて行き
寒明けて今年の稻作古へり

俳句



消ゆものと思ひど憎し屋根の雪
陽を收め陽を放ちおり虹水柱
鬼の面中に幼子の目が遊ぶ
湯治場の窓越しに咲く霧水林
節分の豆に追われる老夫婦
鉢植えのチューリップ咲かぬまま立春迎へ
テール赤く霧水の峰越えて行き
寒明けて今年の稻作古へり

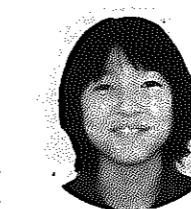
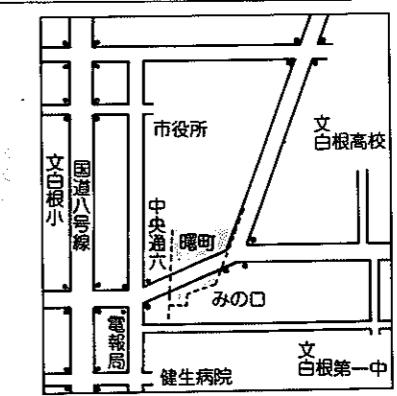
坪川桐太郎 石田 豊美 田中 昭一 真保 清三 牛賀 七郎 佐藤勇一郎

足音のリズムも軽い日の平和
通信簿と擣けてくる子もいなくなり
尻尾巻くことも覚えた処生術
生活のテンポを乱す雪の量
妻もよし彼女もよしとゆかぬシヤバ
水たまり跳べなくなつた日のショック
赤ちゃんも裸で稼ぐコマーシャル

須戸 義夫 大篠 豊治 渡辺 劍 木本 長吉 小林キミイ 岡村 清 田村 恒夫 今井 七郎 織田 セツ

いつ逝くもゆる事なしと思いつつ
白鳥の一羽童話の中を飛び
雪解けの春待つ除雪車が疲れ
住み込みの他人の飯にある小骨
雪の森にしようか青い鳥さがす
冬薄ひときわ自立場を選び

吉川 彰 高橋祐四雄 後藤まさの
西条 ムラ 米野 光雄 長井 徳市
山岡 フミ 織田 譲



白根小学校6年 坂井麻由美さん

ぼくたち
わたしたちの
部落・町内会

曙町

世帯数 60世帯
人口 220人
(男110人 女110人)
(2月1日現在)

